

---

# ***Create!Form RemoteObject***

アップデートマニュアル (V11)

2018 年 8 月  
インフォテック株式会社

# 目次

第 1 章	はじめに	1
第 2 章	旧バージョンの Create!Form RemoteObject からのアップデート	2
2.1	互換性の概要 . . . . .	2
2.2	アップデートの手順 . . . . .	5
第 3 章	その他	8
3.1	導入ディレクトリ . . . . .	8
第 4 章	おわりに	10

## 第 1 章

# はじめに

Create!Form は、帳票および定型ドキュメントの出力を担うソフトウェアパッケージ製品として開発され、多様な業務システムに組み込み利用されています。一度システムに組み込まれ業務運用を始めれば何年も稼動しますが、経年の途中でソフトウェア環境を新しいものに入替える事態も発生します。こういった場合、出来るだけ同じ仕様の製品が提供されていることが望まれます。これが製品における互換性の課題となります。

Create!Form は従来のものと互換性のある最新の製品をご提供できるように製品開発に取り組んでいます。ハードウェアと OS 環境の変化に合わせていく事、または利用技術の変化や市場のニーズに追従させる事などの目的で改良を行いますが、この改良を行う時には、従来の仕様の上に互換性を保って改良を行うことを基準にしています。

しかしながら、将来的に変更を行うことが望ましい場合、従来の仕様を変更する場合があります。こういった場合でも、可能な限り従来の機能を利用できる手法をご提供するよう努力しています。このような事情について、ご理解をいただけるようお願い申し上げます。

## 第 2 章

# 旧バージョンの Create!Form RemoteObject からのアップデート

Create!Form RemoteObject は、旧バージョンの Create!Form RemoteObject から設定を引き継いで利用することができます。

ここでは、旧バージョンの Create!Form RemoteObject からのアップデートについて記載します。

### 2.1 互換性の概要

アップデートにおいて基本的には互換性がありますが、一部の仕様が変更された影響により、そのままでは実行時にエラーが発生したり、出力結果に差異を生じる場合があります。ここでは、アップデートによって互換性に影響する仕様の変更点について記載します。

1. クライアント API
2. プリセットコンテキストの配置先
3. プリセットコンテキストの文字コード
4. Windows サービス名
5. ジョブの有効期限 (保存期間) の設定

#### 2.1.1 クライアント API

[対象バージョン]

V9、V10

**【内容】**

V10 以前の Java のクライアント API は V11 では使用できません。

**【対処】**

V11 の Java のクライアント API に差し替えてください。クラスおよびメソッドの互換性については保たれています。V10 以前に使用していたクライアント設定ファイルはそのまま使用できます。

**2.1.2 プリセットコンテキストの配置先****【対象バージョン】**

V9、V10

**【内容】**

プリセットコンテキストの配置先は以下のように変更されます。

アップデート前	アップデート後
導入ディレクトリ/context	ユーザー設定ディレクトリ/context

**【対処】**

プリセットコンテキストは「[ユーザー設定ディレクトリ /context](#)」に配置してください。

**2.1.3 プリセットコンテキストの文字コード****【対象バージョン】**

V9、V10

**【内容】**

プリセットコンテキストの文字コードは以下のように変更されます。

アップデート前	アップデート後
Shift-JIS	UTF-8 (BOM なし)

**【対処】**

プリセットコンテキストの文字コードは「UTF-8 (BOM なし)」に変更してください。

**2.1.4 Windows サービス名****【対象バージョン】**

V9、V10

**【内容】**

Windows のサービスの名称は以下のように変更されます。(括弧内の名称はサービスモジュール名)

アップデート前	アップデート後
Create! FormRemoteObject V10 (cfrod10) * <sup>1</sup>	Create!Form Commons Container Service V11 (cfccd11)

**【対処】**

Create!Form RemoteObject のサービスの制御を行う場合は、ホーム画面の状態のボタンまたは「[プログラムディレクトリ /bin](#)」に配置されている「cfro.bat」のコマンドから制御します。

Windows サービスのログオンアカウントの変更を行う場合は、「Create!Form Commons Container Service V11」のログオンアカウントを変更してください。

**2.1.5 ジョブの有効期限 (保存期間) の設定****【対象バージョン】**

V9、V10

**【内容】**

V10 以前は設定ファイル「cfro-server.properties」へ「job.available」を追加してジョブの有効期限を設定していましたが、V11 ではジョブ設定画面の実行済みジョブの有効期限から設定を行うように変更されています。

---

\*<sup>1</sup> V9 の場合は Create! FormRemoteObject V9 (cfrod) です。

**【対処】**

設定ファイル「cfro-server.properties」の「job.available」に設定していた値<sup>\*2</sup>をジョブ設定画面の実行済みジョブの有効期限に設定します。

## 2.2 アップデートの手順

アップデートは、以下の手順に従って行います。

1. アップデートツールによる帳票資源ファイルのアップデート
2. サーバへの帳票の配置
3. プリンタドライバの準備
4. サーバ設定ファイルの移行
5. ジョブの有効期限の設定

### 1. アップデートツールによる帳票資源ファイルのアップデート

旧バージョンの Create!Form ランタイムで使用していた帳票資源ファイルをアップデートします。

帳票資源ファイルのアップデートは、Create!Form Design 製品に付属のアップデートツールを使用します。詳しくは、[Create!Form 帳票サポートサイト](#)の「技術資料」にある「**Create!FormV11 アップデートマニュアル**」をご覧ください。

### 2. サーバへの帳票の配置

帳票資源ファイルのアップデートが完了しましたら、Create!Form RemoteObject を導入したサーバへアップデートした帳票資源ファイルを配置します。帳票資源ファイルは、アップデート元のサーバと同じディレクトリ構成で配置してください。

**注意:** ディレクトリ構成を変更する場合はクライアント環境で指定している Create!Form ランタイムの実行オプション「-D」の変更が必要となります。

### 3. プリンタドライバの準備

サーバへの帳票の配置が完了しましたら、プリンタドライバを準備します。

---

<sup>\*2</sup> 「-1」の場合は無期限を表します。

任意のプリンタへ印刷する場合は、アップデート元と同じプリンタドライバをインストールし、プリンタへの印刷を可能な状態にします。

#### 4. サーバ設定ファイルの移行

プリンタドライバの準備が完了しましたら、サーバ設定ファイルの移行を行います。

まずは、Create!Form RemoteObject のログイン画面へアクセスし、ログインを行います。ログイン後、ホーム画面から [停止] ボタンをクリックして Create!Form RemoteObject の稼働状態を停止にします。

アップデート元のサーバの導入ディレクトリ直下の「conf」ディレクトリに配置されている「cfro-server.properties」を ユーザー設定ディレクトリ へ上書きコピーします。

ホーム画面から [開始] ボタンをクリックして Create!Form RemoteObject の稼働状態を開始にします。

#### 5. ジョブの有効期限の設定

旧バージョンの Create!Form RemoteObject の導入ディレクトリ直下にある「conf」ディレクトリの「cfro-server.properties」ファイルを開きます。

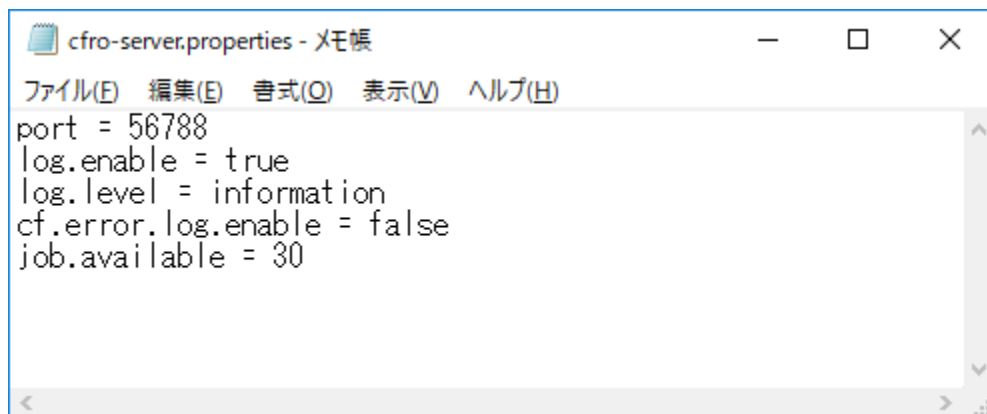


図 2.1 cfro-server.properties ファイル

「job.available」の値を確認します。値が設定されていない場合は本手順のジョブの有効期限の設定は不要です。

クライアントマシンから Create!Form RemoteObject へアクセスし、ジョブ設定画面を表示します。



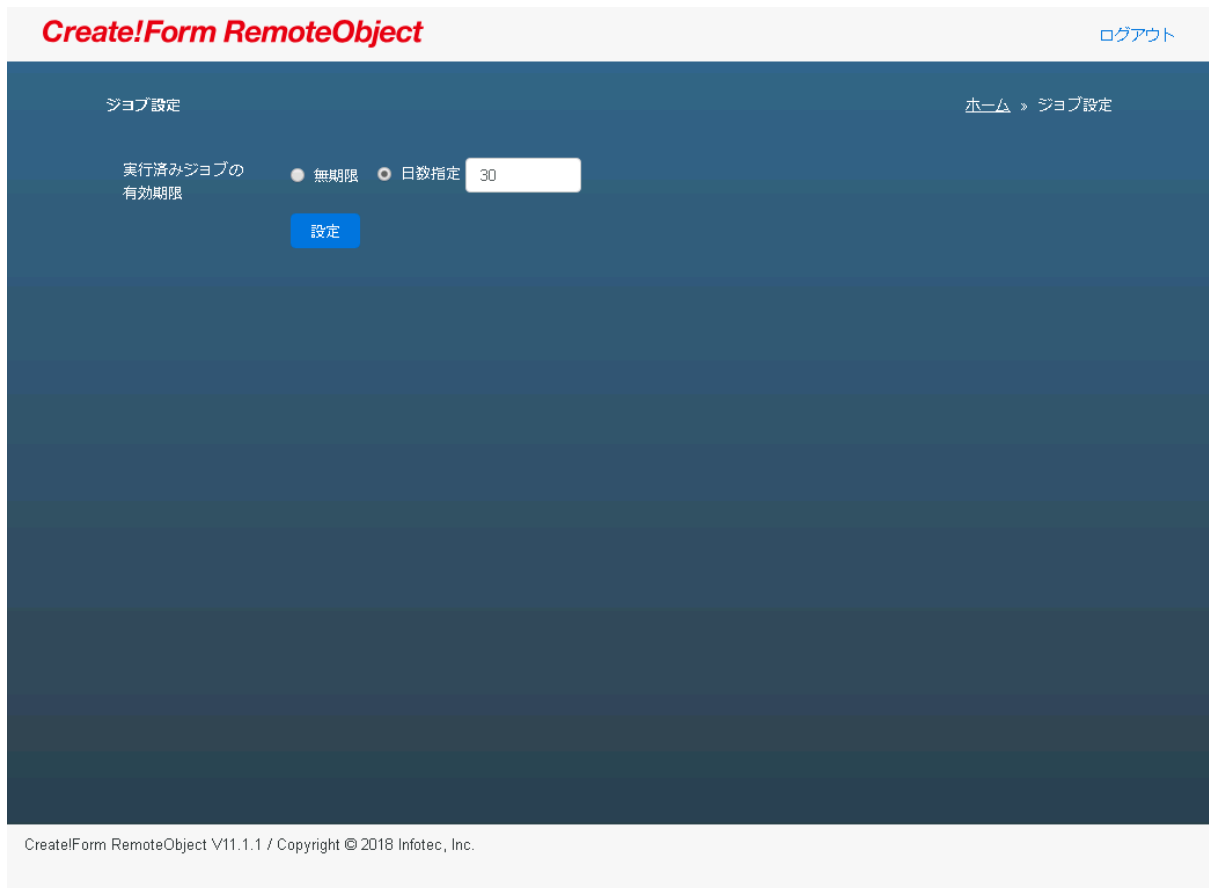


図 2.2 ジョブ設定画面

先ほど確認した「job.available」の値を実行済みジョブの有効期限に設定します。「-1」の場合は「無期限」として設定します。

「設定」ボタンをクリックして「保存して再起動する」ボタンで設定を反映させます。

以上で旧バージョンの Create!Form RemoteObject からのアップデートは完了です。クライアント環境からクライアント API または WebAPI を使用してサーバへ接続し、Create!Form ランタイムが実行されることを確認してください。

## 第 3 章

# その他

### 3.1 導入ディレクトリ

#### 3.1.1 プログラムディレクトリ

製品実行時に必要なプログラムモジュールファイルが格納されるディレクトリです。

初期設定では以下のディレクトリとなります。

##### Windows 環境

`C:\Program Files (x86)\Infotec\CreateForm\11`

##### Linux 環境

`tar` アーカイブを展開したディレクトリ

#### 3.1.2 ユーザー設定ディレクトリ

製品実行時に必要な設定ファイル、製品実行時に変更されるファイルが格納されるディレクトリです。`ini` ファイル、ログ設定用ファイル、`QDF` ファイル、データ編集定義ファイル、フォント情報定義ファイル、カラーパレットファイル、印刷詳細設定ファイル、`PDF` セキュリティ設定ファイルなどが含まれます。

初期設定では以下のディレクトリとなります。

##### Windows 環境

```
C:\ProgramData\Infotec\CreateForm\11\conf\private
```

### Linux 環境

```
tar アーカイブを展開したディレクトリ/conf
```

## 3.1.3 ユーザーデータディレクトリ

Create!Form により作成されるファイルが格納されるディレクトリです。実行ログ、ストレージなどのデータが含まれます。

初期設定では以下のディレクトリとなります。

### Windows 環境

```
C:\ProgramData\Infotec\CreateForm\11\var
```

### Linux 環境

```
tar アーカイブを展開したディレクトリ/var
```

## 3.1.4 ストレージパス

内部のデータベース情報 (ジョブ、環境設定など) が格納されるディレクトリです。

初期設定では以下のディレクトリとなります。

### Windows 環境

```
C:\ProgramData\Infotec\CreateForm\11\var\storage
```

### Linux 環境

```
tar アーカイブを展開したディレクトリ/var/storage
```

## 第 4 章

# おわりに

本アップデートマニュアルは、新たに互換性に関する記載事項が発見された場合は、追加更新が行われます。最新のアップデートマニュアルは、Create!Form ユーザーサポートサイトよりダウンロードできます。また、アップデート作業に関してご質問がある場合、弊社サポート係までご連絡ください。

■ Create!Form ユーザーサポートサイト

URL : <https://support.createform.jp>

■ サポートお問い合わせ

E-Mail : [support-c@iftc.co.jp](mailto:support-c@iftc.co.jp)

**Create!Form RemoteObject**

アップデートマニュアル (V11)

---

発行日 2018 年 09 月 13 日 [第 4 版]

発行者 インフォテック株式会社